

次世代自動車・スマートエネルギー特区 [指定：平成23年12月、認定：平成24年7月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(3.0+3.3) \div 2 = 3.2$

3.2

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	ハイパーエネルギーステーション(HES)の整備箇所数	100%	5
2	認証スマートホーム(共通プラットフォーム接続)の戸数	33%	1

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 0 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 1) \div 2 = 3.0$

3.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
 (例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.3

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii)の平均値 $(3.3+2.8+3.8) \div 3 = 3.3$

3.3

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.3

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

2.8

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.8

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.8

- ・達成されていない数値目標はあるが、市独自でも積極的に政策を展開しており、適当である。
- ・数値目標(1)の各種ハイパーエネルギーステーション(HES)の整備箇所数について、最終的に設定されるHESの充電能力と、今後想定されるEV普及や災害時の避難所電力需要等との関連性が示されると、目標設定の考え方がより明確になる。
- ・数値目標(1)－①について、H29年度に実施された、レジリエンスステーションの導入が想定される実施主体へのヒアリングや調査の結果をもとに、実運用面や採算性の見通しの評価が望まれる。
- ・将来の住宅地とモビリティのモデルを立て、それを実現していこうとする目的の設定については高く評価できる。一方で、スマートコミュニティ・ホームの普及に対して、当該地域の住宅新築状況からすれば特区としてより強力で誘導すべきように思われる。また、モビリティに対しては自動運転など近年の技術革新に柔軟に対応して目標を見直していくことも必要である。
- ・事業の進捗は、外生条件もあり、予定どおりではない項目を含めて、今後の事業の展開に期待する。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.8

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(3.0 + 3.3 + 3.8 \times 2) / 4 = 3.5$

3.5

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。